

# ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

日本ヘルスプロモーション学会公式ホームページ <http://www.jsph.net/>

# 4

第4号

日本ヘルスプロモーション学会  
2004年9月1日発行  
発行者 島内憲夫  
編集者 吉岡康

学会事務局  
〒270-1695  
千葉県印旛郡印旛村  
平賀学園台 1-1  
0476-98-1118 (tel/fax)  
jimukyoku@jsph.net

\* advocate 「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタク憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

## 巻頭言

ヘルスプロモーションと国際協力  
ヘルスプロモーションの概念を途上国の国づくりに

常任理事 建野 正毅(国立国際医療センター)



わが国は、政府開発援助の分野で長年世界のトップドナーとして途上国への協力を行ってきた。保健医療分野は、わが国協力の重点の一つであり、協力の現場では、開発途上国の保健医療体制の中核となる施設へのハード・ソフト両面での支援、プライマリ・ヘルスケア（PHC）の視点を重視しつつ、可能な限り多くの人々に基礎的な保健医療サービスを提供する保健医療システムの構築の支援、わが国の経験を最大限活かし開発途上国の状況に応じた政策立案・実施能力向上を支援、協力の効果を持続的なものにするため、住民参加および NGO との連携強化などを中心に協力活動が展開されている。PHCの視点を重視した活動では、母子保健プロジェクトや地域保健医療システムの確立をめざしたプロジェクトを実施しており、その数も増加している。これらの活動は、相手国の自主性を尊重し、自助努力へのサポートやオーナーシップに重点を置いた協力を目指したものであり、現場主義や住民参加の手法をとりながら途上国並びに地域の真のニーズにこたえられるようなプロジェクト活動である。従来、保健医療分野における協力は、特別な疾患対策や特定の技術を移転する協力が主流であったが、近年では、PHCを中心にした活動や行政や住民組織を巻き込んだ地域保健活動が中心になってきている。我々が対象としている途上国の多くは、経済的格差（貧困）、政治的格差、男女格差、情報の格差など、さま

ざまな格差を抱えている。これらの社会格差は、人々の健康格差と深い関係がある。社会格差は健康格差に影響を与え、同時に健康の格差は社会格差に影響を与えている。このような途上国に先進国の技術やシステムをそのまま適応しようとしても無理であり、このような協力を実施することは、協力の成果が現れないだけでなく、逆に途上国をスポイルするケースも多々見られている。途上国の人々、特に貧しい人々が真に必要とし、また、ゆくゆくは自分達で出来るような協力や援助、すなわち「自助努力の支援」に力点を置いた開発援助が必要になってきている。

一方、世界の健康パラダイムは、リスクファクター探しよりハッピーファクター探しのヘルスプロモーション時代へとシフトしている。途上国の現場では、“健康”はドナーやお上から与えられるものとの意識が強いが、途上国の人々だけでなく援助関係者を含むあらゆる人々に「健康は、“協同”しながら共に生み出すものである」という「イノベーション」が強く求められている。このことは、開発協力で求められている「自助努力」とひとつにするものである。

国際保健の領域では、ヘルスプロモーションを通じて開発途上国に暮らす人々の健康格差を是正する取り組みが増えてきているが、その究極の目的は貧困の解消であり、社会の格差を緩和することであると我々は信じている。

## 第2回学術大会のお知らせ

日本ヘルスプロモーション学会第2回学術大会・総会が、今年も国立国際医療センター（昨年と同様）を会場に、11月20日（土）・21日（日）に開催されることになりました。

第2回目となる今回は、本学会常任理事でもある国立国際医療センターの建野正毅先生を大会長とし、「ヘルスプロモーションと国際協力」をテーマに各プログラムを予定しております。詳細は P.4 をご覧ください。会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

# 特集 研究部会であなたの活動を生かしてみませんか

ADVOCATE2号でもお伝えいたしましたように、多彩な領域の会員からなる日本ヘルスプロモーション学会では、会員の皆さまがそれぞれの立場を通じたヘルスプロモーション活動の場を広げるための機会として学会独自の研究部会を立ち上げました。ここでは、すでに活動を展開している研究部会の代表の方から、それぞれの活動内容についてご紹介していただきます。各部会に関する連絡先を掲載しておりますので、お気軽にお問い合わせください！

## 健康疫学研究部会

代表 鍵谷 英明

### 設立趣旨

健康疫学研究部会では、ヘルスプロモーションの視点に立ち、人々が生き、生活する日常生活やそれを形成する家族や社会（環境）のニーズに注目し、そのニーズを解決するための疫学研究のあり方や、疫学研究による知見を実際のヘルスプロモーション活動に戦略的に活かす方法を明らかにすることを目的とします。

### 活動内容

健康疫学研究部会は、設立趣旨に基づく調査研究を3ステージに分けて活動します。第1ステージでは、ヘルスプロモーション時代に求められる疫学研究の役割について検討します。ここでは従来の疾病対策の戦略から、QOLに結びつくような個人や家族および社会要因に注目します。第2ステージでは、第1ステージの検討内容を実証するフィールドワークを目指します。第3ステージではこれまでの検討や実践から、ヘルスプロモーションにおける疫学的アプローチのframeworkの構築を目指します。

### 事務局

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-1-1 神戸大学大学院 総合人間科学研究科  
Tel 078-803-7740 Fax 078-803-7740 E-Mail kgtn@mti.biglobe.ne.jp

## ヘルスプロモーション理論研究部会

代表 吉岡 康

### 設立趣旨

ヘルスプロモーションという言葉がようやく生活の場で根付きつつある今、ヘルスプロモーションを整理してみる必要があると思われる。これまでの活動を振り返りつつ、今取り組んでいる課題をサポートしていけるような視点に立って、体系的に整理していきたい。活動の成果として、早い機会に、小学校4年生から中学1年生程度の副読本としてヘルスプロモーションが掲げる「健康観」、「住民参加」、「健康なまちづくり」などの概念を、日常生活での体験のささやかなエピソードを積み重ねて平易に記述した「あたらしい健康のはなし」という形でまとめた。

### 活動内容

これまでのヘルスプロモーションに関する基礎文献の整理。公式な形で事務局に保存する。ヘルスプロモーションに係るキーワードの抽出。WHOの用語集及び日本語訳の確定用資料の作成。キーワードの中から、健康観、住民参加、健康なまちづくりについて定義用資料の作成。上記の3つの概念について、平易な日常会話をを用いた副読本を作成する。これらの資料を事務局に提出する。＜その他＞月に1回程度、千葉又は佐倉付近で2時間程度のミーティングを行う。出席者による前月の課題整理と翌月までの課題の検討を行いメンバーにメール送付する形を繰り返していく。

### 事務局

〒270-1695 千葉県印旛郡印旛村平賀学園台1-1 順天堂大学健康社会学研究室内  
Tel 0476-98-1118 Fax 0476-98-1118 E-Mail y.yshok@mb.pref.chiba.jp

## コミュニティ健康づくり研究部会

代表 笠井 喜久雄

### 設立趣旨

この研究部会は、健康づくりは「人と人との交流から生まれ・創られる」をテーマに研究する部会です。全国のユニークな健康づくり実践活動の情報を収集し、テーマとの関わりを検証していきます。また、健康づくり活動団体同士のネットワーク化を推進していきます。

### 活動内容

この研究部会は、次のような活動を行います。健康づくり実践活動の情報収集 健康づくり実践活動の情報発信 健康づくり活動団体の交流会 研究の成果発表 会員同士の親睦会

### 事務局

〒270-1416 千葉県白井市復1-1-2-3 白井保健福祉センター内 健康福祉部健康課健康づくり推進班 笠井まで  
Tel 047-497-3494 Fax 047-492-3033 E-Mail shiroi-0008@msd.biglobe.ne.jp

### 健康社会学研究部会

代表 助友 裕子

#### 設立趣旨

健康社会学とは、人々の健康を支えている現実を人生、愛、そして生活の場である地域社会・職場・学校・家庭との関係において理解した上で、その健康を創っていくための方法としてのヘルスプロモーションのあり方を固有の社会学的な視点から解明していく科学である。(島内&助友 2000)「健康とは何か(健康観)」「何が健康をつくっているのか(ハッピーファクター)」「健康はどこでつくられているのか(生活の場: settings for health)」についての解明を目指す研究部会である。

#### 活動内容

ヘルスプロモーションのあり方を解明するための方法論として、本研究部会では2つのアプローチ( Settings アプローチ、Topic based アプローチ)を主眼とした下記のような研究活動を行う。抄読会(文献の紹介、翻訳) プロジェクト活動(研究、助成事業) 各種学会における( )の成果発表 各種学会への参加および報告 交流会 その他( Settings アプローチならびに Topic based アプローチの健康社会学的体系化を図るために、積極的に他部会との交流事業を行う。)

< 現在予定中の活動 2004/09/01 > 「Blake D. Poland, Lawrence W. Green & Irving Rootman (2000) “SETTINGS FOR HEALTH PROMOTION: Linking Theory and Practice” Sage Publications, Inc.」の翻訳勉強会など

#### 事務局

〒270-1695 千葉県印旛郡印旛村平賀学園台1-1 順天堂大学健康社会学研究室内 順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター内  
Tel 0476-98-1118 Fax 0476-98-1118 E-Mail hiroko\_suketomo@hotmail.com

### 国際協力研究部会

代表 湯浅 資之

#### 設立趣旨

ヘルスプロモーションは開発途上国にも適用できる概念だろうか？

もともとヨーロッパやカナダで生まれ育ったヘルスプロモーションですが、その普遍性のゆえに世界中どここの社会でも適用が可能ではないか、との問題意識から始まった研究部会です。地球上に生活すべての人々の健康と幸せを願って、ヘルスプロモーションの理念に基づく活動を効果的に進めるための条件・技術・考え方を検討します。

#### 活動内容

現在、研究部会長の湯浅が国際協力機構(JICA)の「東北ブラジル健康なまちづくりプロジェクト」に派遣されていることから、世界でもっとも貧富の格差が大きいと言われているブラジルの東北部でヘルスプロモーションを基本概念とするプロジェクトを展開しています。健康、貧富などあらゆる社会格差が存在し、過酷な自然と社会環境で生活する東北ブラジルの人々に、ヘルスプロモーションがどこまで有益なものなのかを考え続けています。

< その他 > 研究活動は主に東北ブラジルで実施されますが、インターネットなどを通して日本在住の人々も参加できます。開発途上国のヘルスプロモーション活動に関心のある方ならどなたでも、下記部会事務局までご連絡ください。「東北ブラジル健康なまちづくりプロジェクト」から毎月1回月報が届きます。ご感想、ご意見を歓迎いたします。

また、平成16年度の学術大会(11月開催予定)では、研究部会の活動成果を発表する計画です。

#### 事務局

##### 日本部会事務局

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 国立国際医療センター研究所栄養障害研究室気付 西田美佐 宛  
Tel 03-3202-7181(内線2855) Fax 03-3202-7364 E-mail nishida.misa@ri.imcj.go.jp

##### ブラジル部会事務局

Dr. Motoyuki YUASA, a/c NUSP, Av.Prof.Moraes Rego s/n, Hospital das Clinicas  
Bloco E, 4 andar, Recife-PE, Brasil, 50670-420, E-mail yuamokun@yahoo.co.jp

### 書評

湯浅 資之(国立国際医療センター)

本書はヘルスプロモーションの発展と普及に著  
名な貢献をしたことで名高いナルド・ナットビ  
ムとチザ・バスリス・メウ氏による研究抄録(毛  
グラフ)の邦訳と、監訳者である島内憲夫氏の  
ヘルスプロモーション理論を解説した講演録の合  
本である。  
前者の毛グラフでは、ヘルスプロモーションに  
する多様な理論とモデルを総説として総括的に  
解説しており、理論体系の全体を把握するには  
格好の書といえる。本書を読むと、本文中で著  
者も指摘しているように、ヘルスプロモーションの  
理念を包括的に描き出している理論やモデルは  
無く、ひとつではなく、多元的・局面的から多様な  
方法論を組み合わせたことが必要であることが  
よく理解できる。また、関係するモデルが要約  
されている点も本書の大きな特徴で、類似の専  
門書はわが国ではこの本を除いて他に発行され  
ていないと思う。したがって、ヘルスプロモーション  
実践者にとつて厄介なあるいはできれば敬遠し  
たくなるような理論を学ぶには、本書に勝る指  
南本はないと思う。この本を入門としてさらに  
深く知りたい場合には、個別の理論やモデルの専  
門書を読むと良い。  
後者の監訳者島内憲夫氏の講演録は、前者の  
毛グラフをさらにわかりやすく、また日本の  
文脈の中で理論とモデルの扱い方、考え方が述べ  
られており、ヘルスプロモーションの論理的側面  
を理解を手助けしてくれる。監訳者の島内氏に  
いくぶんか述べる必要もないと思うが、氏はこ  
れまでもヘルスプロモーションに関する歴史的  
に貴重な文書を多数邦訳しており、わが国に  
ヘルスプロモーションを導き出した真実が多  
ある。本書もその他の翻訳本と同様、わが  
国で公表されるヘルスプロモーションに関する学  
論文の参考文献として、必携の図書に数え上げ  
られるであろう。  
最後に、本書評の執筆者は現在ブラジルの東  
北部でヘルスプロモーションの理念に基づき地域開  
発に従事している国際協力専門家であるが、本  
書の愛読者でもある。現場でヘルスプロモーション  
の活動を実践する上で、常に理論的な考察を忘  
れずにはならないと自戒している。活動のオリジ  
ナリティを生かす立派な本には、活動の有益な情  
報を与えてくれる。そのために、本書を何  
度も繰り返し読んで参考にする。実践だけでは  
理論の両立こそが、理論だけでは虚構に陥る。実践  
生み出し、理論で立証される。確かなヘルスプロモ  
ーションを

垣内出版(1003)

日本ヘルスプロモーション学会  
第2回学術大会プログラム

ヘルスプロモーションと国際協力

以下の要領で第2回学術大会・総会を行います。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

期 日： 平成 16 年 11 月 20 日（土） - 21 日（日）  
 会 場： 国立国際医療センター 国際医療協力研修センター 5 階 大会議室  
 東京都新宿区戸山 1 - 2 1 - 1  
 都営地下鉄大江戸線「若松河田」駅より徒歩 5 分 東京メトロ東西線「早稲田」駅より徒歩 10 分  
 大会長： 建野 正毅（国立国際医療センター）

プログラム

11月20日(土)  
 9:30 受付  
 9:50-10:05 開会式  
 10:05- 基調講演 座長：日本ヘルスプロモーション学会会長 島内 憲夫（順天堂大学）  
 10:05-11:05 1. 大会長講演「開発協力とヘルスプロモーション」  
 第2回学術大会会長 建野 正毅（国立国際医療センター）  
 コーヒーブレイク  
 11:05-11:20 2. 特別講演「ヘルスリテラシーと世界のヘルスプロモーション戦略」  
 11:20-12:50 Donald Nutbeam（シドニー大学教授）  
 12:50-14:30 昼食  
 14:30-17:30 シンポジウム 「個人・組織・コミュニティの潜在能力を高めよう試み  
 - 諸外国のヘルスプロモーション活動の現場から -」  
 （ネパール・クロアチア・ホンジュラス・ボリビア・ブラジルからの報告）  
 コーディネーター： 湯浅資之（国立国際医療センター） 西田美佐（国立国際医療センター）  
 シンポジスト： 中村修一（九州歯科大学） 蝦名玲子（グローバル・ヘルス・コミュニケーションズ）  
 仲佐保（国立国際医療センター） 山本佐枝子（国立国際医療センター）  
 Dra. Ronice Franco de S（ブラジル連邦、ベルナンブコ連邦大学公衆衛生社会開発センター所長）  
 18:00- 懇親会  
 11月21日(日)  
 8:30-9:00 理事会  
 9:00 受付  
 9:15-9:45 第2回総会  
 10:00-11:00 活動報告（展示ブースによる活動報告の場をセッティング予定）  
 11:00-12:00 昼食  
 12:00-14:30 シンポジウム  
 「ヘルスプロモーションにおける‘住民主体’について考えよう 健康なまちづくりの実践から」  
 コーディネーター： 砂川博史（山口県萩健康福祉センター所長） 山本春江（青森県立保健大学）  
 シンポジスト： 田山地麻里（宮崎市保健所） 松岡正純（白井市企画政策課）  
 久保勇人（中国ヘルスケアシステム）  
 14:30 閉会式

参加費

一般会員 ¥2,000 学生会員 ¥1,000 非会員 ¥3,000 懇親会費 ¥4,000(別途)

プログラム上に記載されている時間帯は、おおまかな目安ですので、変更になる可能性もございます。予めご了承くださいませ。

トピックス

Vol.4

ヘルスプロモーション  
グロッサリー

7. ヘルスプロモーションのためのパートナーシップ (Partnership for health promotion) : 共有されたヘルス・アウトカムの設置に向けて協力しながら歩む二者あるいはそれ以上のパートナーの間で自発的に認知されるもの。(WHO 1998)  
 8. 健康における公正 (Equity in health) : 公正とは公平のことである。健康における公正とは、人々のニーズによって well-being の機会が提供されるようになることを意味する。(WHO 1998)

「会員の声」を募集しています！

身の回りの活動、日頃思うこと、ニュースレターに対するご意見、学会に対するご意見等、何でも結構です。

jimukyoku@jshp.net

編集後記 今年の夏は記録的な猛暑でした。台風上陸も然り、日本列島は新たな歴史の1ページを刻んでいます。11月20-21日に渡って行われる第2回学術大会ですが、世界を意識したプログラムとなりました。WHOのヘルスプロモーション戦略をめぐって世界的にご活躍されている Donald Nutbeam 先生がお越しになられます。会員の皆様、是非この機会にご参加ください。(吉岡)

©本印刷物の無断転載を禁じます。